

視察・研修等報告書

令和3年5月24日

北上市議会議長 様

北上市議会
議員 小原享子

私が参加した次の 視察・~~研修~~ について次のとおり報告します。

期間（期日）	令和3年5月24日（月）
視察先 視察内容 または 研修事項	マニフェスト大賞 2021 キックオフ研修会 （オンライン参加）

〔報告〕

講演1 「議会から地方の変革を」 北川 正恭 早稲田大学名誉教授/マニフェスト大賞審査委員長
講演2 「市民による政策選択から実践までつながるシステムづくり」 古川 雅典 多治見市長(マニフェスト大賞 2020 グランプリ)
セッション1 「生活者起点のマニフェストサイクルで地域を変えていく」 北川 正恭 早稲田大学名誉教授/マニフェスト大賞審査委員長 古川 雅典 多治見市長(マニフェスト大賞 2020 グランプリ) ファシリテーター 川上 文浩(ローカル・マニフェスト推進連盟共同代表/岐阜県 可児市議会議員)
事例報告1 「オンライン本会議の可能性を探る～模擬本会議を実施した大津市議会からの 報告～」 清水 克士 滋賀県大津市議会局長(マニフェスト大賞 2020 エリア選抜)

<p>事例報告2 「楽しみながら社会問題や政策の存在に気付く『ゲーム限界都市』」</p> <p>東 善朗 一般社団法人 Do It Yourself 代表理事(マニフェスト大賞 2020 優秀コミュニケーション戦略賞)</p>
<p>事例報告3 「『みんな de 議会』議会より一足先に予算を市民と一緒に審査する」</p> <p>前川 和治 福井県敦賀市議会議員(マニフェスト大賞 2020 優秀コミュニケーション戦略賞)</p>
<p>講演3 「議会改革から議会の“変革”へ」</p> <p>中村 健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長</p>
<p>事例報告4 「議会報告会のオンラインの活用や他議会と連携した議会 BCP の改定」</p> <p>澤野 伸 岐阜県可児市議会議長(マニフェスト大賞 2020 エリア選抜)</p>
<p>セッション2 「“変革”へ向けた議会のあり方」</p> <p>澤野 伸 岐阜県可児市議会議長(マニフェスト大賞 2020 エリア選抜)</p> <p>田中 健 愛知県知立市議会前議長(マニフェスト大賞 2020 エリア選抜)</p> <p>清水 克士 滋賀県大津市議会局長(マニフェスト大賞 2020 エリア選抜)</p> <p>ファシリテーター 中村 健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長</p>
<p>まとめ</p> <p>北川 正恭 早稲田大学名誉教授/マニフェスト大賞審査委員長</p>

〔所感〕

<p>2020年「マニフェスト大賞」を受賞した先進事例から多くのことを学び得ることができた。</p>
<p>特に昨年グランプリを受賞した岐阜県多治見市長は、「市民による政策選択から実践まで</p>
<p>つながるシステムづくり」という内容で、多治見市ではマニフェスト選挙が当たり前のものと</p>

<p>して定着している。政策競争の前提となるデータ集(討議課題集)を公表し、マニフェスト</p>
<p>を作成し、選挙において政策競争を行う。当選した市長マニフェストは「総合計画」に反映。</p>
<p>大切なのは、計画の実行・実現で、そのための徹底した市民・職員の参加と、目標管理</p>
<p>制度との連動、財政計画との連動でスピード感を持って実施する。この市長の姿勢から</p>
<p>市民の声を徹底的に聞き、財政計画を持つての政策競争の重要性を感じた。</p>
<p>政策は、市民を幸せにすることが目的であり、財源のない政策は政策でないという考えに</p>
<p>議員であっても、大切な視点であると思った。</p>
<p>今年のテーマは「改革から変革へ～地域から日本を変える～」ということである。</p>
<p>マニフェスト大賞は16年目。今まで、議会改革に取り組んできたわけだが新しい時代に入</p>
<p>ったことを感じた。2030年、社会情勢も変化していく。生産人口減少しAIも進化して</p>
<p>行く中、議会に求められることは何か。組織としての議会活動が重要になる。議会事務局</p>
<p>も合わせ、チーム議会として政策提案を、住民を巻き込んで、市民の声を聴きながらして</p>
<p>いくこと。変革という業務プロセスや事業構造を抜本的に見直し、組織そのものを変えて</p>
<p>いくという、新しい考え方を持って議会も変革を求められる時代になることを実感した。</p>

視察・研修等報告書

令和3年7月9日

北上市議会議長 様

北上市議会
議員 小原享子

私が参加した次の 視察・~~研修~~ について次のとおり報告します。

期間（期日）	令和3年7月7日（水） 令和3年7月8日（木）
視察先 視察内容 または 研修事項	全国地方議会サミット 2021 （オンライン参加）

〔報告〕

<第1日目>

【基調講演】「チーム議会でデジタル変革を」

北川 正恭（早稲田大学名誉教授／元三重県知事）

事務局の志と、議会の志が一緒になると大きな力を発揮する。議会の信頼感が増せば、地域が変わる。

【講演】「地域における DX —自治体 DX・住民接点 DX から地域活性 DX へ—」

松本 良平（(株)NTT データ 企画調整室長）

地域における DX は、行政・住民接点の DX に留まらず、地域活性化や広域連携の DX 化にも活用でき、住民の QOL を支えていくことを可能にする。

【特別講演】「だれひとり取り残さない—デジタル庁の変革ビジョン—」

平井 卓也（デジタル改革担当大臣）

- 9月1日からデジタル庁がスタート
- 自治体が共同プラットフォームを作ったの運用も、自治体のデータは完全に分離される。
- 「今までのあたりまえを当たり前としない」突破するのがDX。
- デジ道: 困ってる人を取り残さない。出来る人が、困っている人を助ける社会。
障がい、高齢者など、使い勝手が悪かったら変える。
- 議会のデジタル化: 市民の見える化が進む。機動的な政策提言に繋げられる。

【議会セッション】 「オンライン議会の最前線と議会からのDX」

前田 将臣（大阪府議会議員）: 議会オンライン委員会。

育児、介護等のやむを得ない事由でも出席可能

齋藤 久代（茨城県取手市議会議長）: オンラインの活用

- オンライン委員会時の採決に表決採択プラウザの活用。本会議場でもタブレットで採決。
- オンライン活用し、請願者発言。
- オンライン現地視察。
- 市民との意見交換会。行政視察。中学生との対話事業。災害時対応訓練
- 音声テック: 議会映像配信にリアルタイムに文字表示

鈴木 太郎（自由民主党横浜市議会議員団団長）

- 官民データ活用推進基本条例
- デジタル化推進特別委員会
- 横浜みらい創生プラットフォーム: 市民とともに政策を実現するプラットフォーム

中村 健（コーディネーター／早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

【議会セッション】 『議会からの政策サイクル』の作動とチーム議会への変革—議会評価による検証を起点に—

江藤 俊昭（大正大学社会共生学部教授）

議会からの政策サイクルによって住民福祉の向上を目指す

・善い政策、サービスは、善いシステムから生まれる。

- 議会からの政策サイクル
- 地方議会成熟度評価による議会改革のバージョンアップ

清川 雅史（会津若松市議会議長）

- 政策討論会議会制度検討委員会へ市民委員2名参加
- 協働型議会：議会報告会ではなく市民との意見交換会
- 政策サイクルにおける「意見整理」→「問題発見」→「課題設定」
- 議会制度検討委員会に市民公募委員2名；地方議会評価モデル

川上 文浩（可児市議会議員）

- 市民福祉向上のための4つの議会サイクル
- 委員会代表質問
- 若い世代との交流サイクル：ママさん議会・高校生議会

野澤 清（日本生産性本部）

- 「地方議会評価モデル」：住民に価値を提供できる議会へ
議会の頑張りを「見える化」する

<第2日目>

【講演】「社会の変革とこれからの地方自治を展望する」

廣瀬 克哉（法政大学総長）

- 危機管理能力の低さ：希望的観測ではなく、最悪時も維持できる議会。
- 自治体単位での自己決定権

【議会事務局セッション】「チーム議会における議会(事務局)職員とのミッション」

吉田 利宏 (コーディネーター/元衆議院法制局参事)

清水 克士 (滋賀県大津市議会 議会局長)

- 「議会局職員＝軍師」論
- 「チーム議会」の構成要素
- 「軍師」に求められるもの:「課題」に向き合うスタンス・「突破力」「風を読む力」

浜田 将彰 (東京都墨田区監査委員・前区議会事務局長)

- 墨田区議会基本条例に「議会事務局は、…議会に対し提案を行うことができる。」:事務局も含め、オール議会として二元代表制の一翼を担う決意の明文化。

臼井 明子 (神奈川県茅ヶ崎市議会事務局次長補佐)

- 「市民利益を最優先とした議会改革における職員の参画」
- 政策討議への職員の参画、重複質問の調整

提案するが、決定を行うのは議員

【講演】「議会改革度調査より 議会 DX・多様な参加の最新トレンド」

中村 健 (早稲田大学マニフェスト研究所事務局長)

- 改革:時代変化や生活環境のスタイル等にあわせ、より快適に環境を整えていく事
- 変革:業務プロセスや事業構造を抜本的に見直し組織そのものを変えていく事

今求められているものに、議会そのもののあり方から変える。

聴かない(聴いているつもり) ⇒ 集約する

見せない(見せているつもり) ⇒ 参画

議論しない(議論しているつもり) ⇒ 具体の解決

- 久慈市議会の ICT 活用しての災害時の議会対応:災害時一番議会が活躍

【メディアセッション】「映画『はりぼて』の現場から」

砂沢 智史 ((株)チューリップテレビ 映画『はりぼて』監督)

閉鎖的だった「富山市議会」 政務活動費の不正支出で辞職ドミノ

「社会の変化とメディアからみる地方議会」

千葉 茂明 (コーディネーター/月刊「ガバナンス」編集主幹)

人羅 格 (毎日新聞社論説委員)

閉鎖性なくす 3J:女性・事務局・情報

山下 剛 (朝日新聞記者)朝日新聞デジタル機動報道部

議会は住民福祉の向上にどうつながるか

杉田 淳 (NHK 報道局 選挙プロジェクト 記者)

地方議員1788議会3万 2,400 人への調査

砂沢 智史 ((株)チューリップテレビ 映画『はりぼて』監督)

【講演】「社会の変革に対応する自治体と議会の役割」

片山 善博 (早稲田大学教授/元総務大臣)

- ポストコロナの地方創生:自分たちの地域は自分たちの手で
- 脱炭酸化の潮流と自治体の取り組み:中山間地ほどこれからのエネルギー供給地域!
- デジタル化と自治体の対応:「住民のため」の視点を、デジタルに長けた人材がいるか。共同自治体でも OK (遠隔地でも対応できる。)

【総括・宣言】北川 正恭 (早稲田大学名誉教授/元三重県知事)

民意を反映し、地方から議会を変える。システムで仕事、チーム議会全体でがんばる。

〔所感〕

地方から国を変える、地方議会の善政競争を目指し開始されたマニフェスト大賞も16年。
全国地方議会サミットも第3回を迎えた。今年のテーマは「改革から変革へ デジタルで
議会が変革する」。変革とは、議会そのもののあり方から変えていくこと。
地方議会の目指すべきものは、住民の福祉の向上にどう向き合い、目に見える形で
示すのか。住民の声を聴いているつもり、住民に見せているつもり、議論しているつもりから
市民の多様な意見を集約し、市民参画を図り、市民の地域の問題を具体的解決に導く。
そのために、多くの窓口を開放することが必要である。対面のみではなく、ICTの活用で
更に手法が広がる。
そして、他自治体の多様な実績を参考に、当議会が民意を反映できる方法を開発していく
事。議会の活動が市民に見え、市民福祉のため市民と一緒に行動していく中で議員のなり
手不足の解決策が見いだせることを知りえた。
議会のあり方を見直す手法として「地方議会評価モデル」を開発、検証中ということである。
議会改革の中で、様々な見直しも行われているが、当市議会にあっても、住民に価値を提供
できる議会かという点から研究に値すると思う。
とにかく、チーム議会として、市民の代表としての議会と行政システムを知っている議会事
務局が一体となり、議会運営にあたることが重要であり、そのための議会基本条例での、
議会事務局職員の規定のあり方の検討も必要と感じた。

令和3年度分 政務活動費収支報告書

北上市議会議員 小原享子